

# ハイキングや野外活動に 最適の源流の山

土佐山周辺



山内一豊が土佐入国にあたり、この山を目標にしたという伝説が有るほどで、山頂からの見晴らしはとて

アカガシ・モミなどの原生林の中で、鮮やかな色彩を放ちます。

もすばらしく、天気の良い日には、北に石鎚山・瓶ヶ森などの山々を望むことができます。登山口から山頂までは徒歩で約1時間。ハイキングや野外活動などに

山中には鏡川の源流の一つとされる小谷、「さいの河原」が流れています。その透き通った水面には四季折々の自然の顔をうつしだし、訪れる人の目を和ませています。

小さな子どもからお年寄りまで幅広く親しまれています。春には、アケボノツツジ・

山麓赤良木峠には、「工石山青少年の家」があり、春から秋にかけて賑わいます。また、この施設の脇を

流れる岩清水「源流工石山の水」は冷たくておいしいモジといった樹木が、ブナ・

こと有名です。

散策スポット 01

## 工石山 (さいの河原)

Mt. Kuishi  
[Sai-no-kawara]



トイレ施設あり

# 山奥での清流遊びを満喫できる絶好の場所



この峡谷は大小の岩が折り重なるように続き、岩々にしみ通るような音を立てながら流れています。

春は桜、山ツツジ、秋は紅葉など四季が楽しめ、流れる清水にはアメゴも泳いでいます。

峡谷の下流部にはキャンプ場（水道施設とトイレあり）もあり、テントサイト前の小川は石でせき止めたプールになっており小さい子どもでも安心して川遊びができます。水温は夏でも大人は飛び込むのを戸惑うほどキリッと冷たく、山奥での清流遊びを満喫できる絶好の場所となっています。



 トイレ施設あり

# 全長500m！ 市内で見られる鍾乳洞



この地域が菖蒲と呼ばれているところからこの名がつけました。あたり一帯シヨウブでも咲いていたのでしょうか。

ミムシなどの洞窟性動物・昆虫も生息していて、学術研究洞窟としても貴重な存在です。

昭和24年に梶の天然記念物に指定され、昭和32年には日仏共同探検隊の調査によつて、本洞350m、支洞を合わせると500mの鍾乳洞であると判明しました。

他に、菖蒲洞から約50m山の上に行くと、弥生時代の遺跡、初平ヶ岩屋もあります。また、付近の西川地区には「自由党史」を執筆した自由民権家、和田三郎の生家跡があります。

洞内は、夏は涼しく冬は温かで、鍾乳石・石筍・石柱が林立し、美麗奇観を呈しています。洞窟奥深くから清水が湧き出ていてライトで照らすと、とても神秘的に青く輝きます。コウモリ、チビメクラゴ

※菖蒲洞は通常、出入り口を封鎖しています。洞内見学の際は土佐山公民館（088・895・2965）または高知市教育委員会生涯学習課（088・822・6394）へ事前にお問い合わせください。



トイレ施設あり

# 七つの滝が一度に見られる七ツ瀨

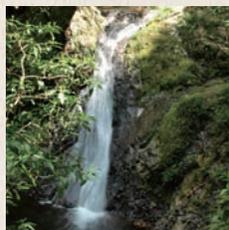


すころぼく・むしやがぼく・はらみぼく・かかぼく  
菅生瀑・武者力瀑・孕瀑・甲瀑・  
ふしがぼく・わたりがぼく・げじまがぼく  
藤力瀑・渡力瀑・下女力瀑の7つの滝  
からなっているのです、この名前が付いた  
ということですよ。

最上流に七ツ瀨神社があります。古くは弁財天と呼ばれ、明治元年に七ツ瀨神社と改称。五穀豊穰、大漁、商売繁盛の神様として有名です。

その昔、平家の落武者がここに逃れ隠れ住んでいたが白鷺を源氏の白旗と見誤り瀨に入水したとの哀話が伝えられています。

鏡川の源流の一つであり、清流はゲンジボタルの生息地ともなっており、夏にはその優雅な姿が楽しめます。



トイレ施設あり

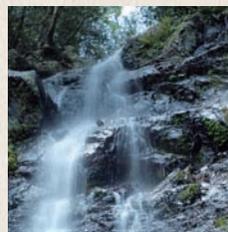
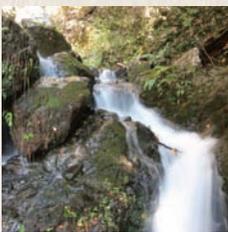
# 「絶対に落ちない」 縁起かつぎスポット



奇石「ゴトゴト石」は重さ約5トン。大岩の上にポツンと座っている日本一不思議な石。手で押すと簡単に前後にゴトンゴトンと揺らすことができます。その揺れる様からゴトゴト石と名付けられたようです。また、その昔何人かの力持ちが力一杯押してみたがゴトゴトと音を立てて揺れるのみで、押し落とすことはできなかつたという逸話があります。全くもって不思議な石です。

また、この石は「絶対に落ちない」ということで縁起をかつぎ、選挙の立候補者や受験生がよく祈願に訪れています。

この場所のすぐ上の方に、高さ30mもある清水の美しい瀑布、「山姥の滝」やまんばのたきがあります。滝の中間の岩場の割目には、山姥様が祀られている。山姥様とは八町四方の森林の断崖に棲み自由に空を飛ぶこともできる老婆の姿をした福の神だと古老は伝えています。



トイレ施設あり

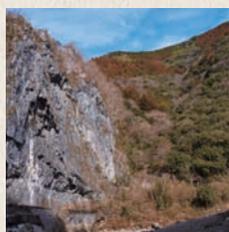
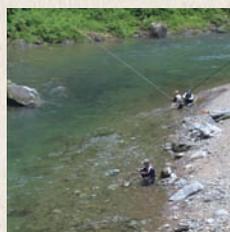
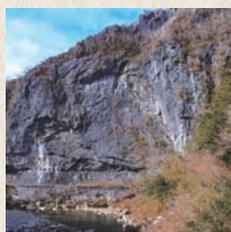
# 仰ぎ見る絶壁に空いた 弘瀬の大穴



灰色にそびえ立つ巨大な石灰岩の絶壁に、直径5m、奥行き10m程の大穴があることからこの名前が付いています。

100m余りの高さのこの岸壁は、以前はロッククライミングの練習場としても利用されていました。

ヤマブキや山ビワ、紅葉が四季折々の彩りを変え、眼下を流れる鏡川の川面に映し出されます。河原はキャンプの絶好ポイント。水泳や釣りも楽しめ、夏には多くの家族連れでにぎわいます。



トイレ施設あり